令和６年度第１回鎌ケ谷市きらりホール運営委員会　会議録

日　　時：令和６年１１月１５日（金）　午後２時～午後４時
会　　場：きらりホール　舞台
出席委員：平栗三男委員長、齋藤譲一副委員長、清水暉允委員、伊藤眞由美委員、植草ひろみ委員、小川由美子委員、石井圭子委員、佐瀬光代委員、榎本美紅委員、平野智美委員
指定管理者（株式会社セイウン）：きらりホール渡邉館長、湯浅副館長
指定管理事業本部：加藤副本部長、
小倉グループリーダー、川嵜
事務局（文化・スポーツ課）：後野課長、飯村副主幹、石毛、中井
欠席委員：山田圭子委員、飯田卓委員、内山治委員、米山美佐保委員
傍聴者：０人

１　開会
・事務局より、現指定管理者の株式会社セイウンが、令和７年度からの５年間も引き続き指定管理者となる旨を報告。

２　教育長挨拶

３　委員長挨拶

４　指定管理者及び事務局紹介
・会議は原則公開となるが、利用者等の個人のプライバシーに該当する事項及び指定管理者の収支報告に関する事項は、非公開情報となる旨を説明。

５　会議録署名人の指名
会議録署名人は佐瀬光代委員、榎本美紅委員に決定。

６　議題
～指定管理者　株式会社セイウンより、資料に沿って説明～
議案第１号「令和６年度上半期事業報告について」
議案第２号「令和７年度事業計画について」

事　務　局：　山田委員（当日欠席の為、事務局より報告）より、令和５年度きらりホール主催事業「鎌ケ谷市立鎌ケ谷中学校スクールコンサート」について、鎌ケ谷中学校吹奏楽部の生徒達がプロの音楽家の指導を受け、同じステージに立って演奏することができ、大変貴重な機会となったとのご意見をいただいた。

清 水 委 員：　利用実績及び収支実績について、令和２年度の来場者数が極端に減

っているのはコロナの影響か。

指定管理者：　そのとおりである。

清 水 委 員：　上半期の事業報告において、アンケートは大体良いことが書かれているが、映画のことについては、いろいろと指摘が多い。来年度の映画は決まっているのか、またどのような映画を選んでいるのか。アンケートの中にもあるように外国映画や年配者が多いので、昭和の白黒映画、「エデンの東」や「二十四の瞳」などの名作を上映するのはどうか。映画館では観られないものを発掘していただけたら、今５００円と大変安い値段で観ることができるが、１,０００円でも良いと思えるのではないか。

齋藤副委員長：　映画に関しては利用率を高めるという意味でも、良い映画を上映し、なかなか映画館では観られない映画等も企画していただけたらいいのではないかと思う。

石 井 委 員：　令和７年度の計画について、基本的に小学生以上を対象としたものが多いので、もう少し幼児が参加できる企画が欲しいと思う。自分自身に幼稚園児の子どもがいるが、ここ何年かは、きらりホールに足を運んでいない。観に来られるものがないと思っているので、例えば内容については、騒いでもいいよというようなものを、少し入れていただきたい。

指定管理者：　幼児も参加できる事業は令和７年度のラインナップに入ってないので、検討してまいりたい。過去の事例で言うと、０歳児からの音楽コンサートや子ども向け映画を実施している。ご指摘をいただいたもは引き出しから出し入れしながらやっていきたいと考えている。

平 野 委 員：　私は子どもの頃、合唱クラブ・吹奏楽部に入っていた。その時に、普段音楽室で練習しているが、年に１回のコンクールに向けた、ホール練習での演奏体験が今でも糧になっている。子ども達が、このホールに立って演奏する機会をたくさん増やしていけたら素敵だと思っている。

主催事業に「アーティスト発掘プロジェクト」があるが、これはかなり少人数の編成を対象としたものであって、しかも相当演奏できないとこの舞台に立てない。合唱団、吹奏楽団や小・中学生、高校の音楽活動など、普段の生活の中で育んでいる音楽をこの大きな立派なホールで演奏する機会を、作っていただけたらとても素晴らしいと思う。

市の事業で音楽祭やふれあいまつりなど、演奏する機会があるようだが、そこには小・中学生、高校生の若い子どもたちは参加していない。予算的に、そのような事業は収入がゼロであるため当日のプログラムにそのスポンサーを募って、収益を上げている。プラスにならない事業に関しても、そのように収入を増やす門戸を広げれば、事業的にも成り立つのではないかと思う。

指定管理者：　毎年開催している、「きらり！あなたがアーティスト演奏会」では、ホールを解放して、ピアノを自由に弾く機会を提供する「きらりホールで演奏体験あなたがアーティスト」という事業に参加された方が、演奏会を行っている。例えば、おひとりや１組でお金を払ってお客さんを呼んで演奏会を行うのは、厳しいという方々に、ホールでの演奏体験を楽しんでいただこうということで、始めた企画。構造を少し変えて、委員がおっしゃったように、学校・部活動のくくりで考える。そういった方々を募って集まっていただき、例えば音楽祭等の形に仕立てを変えることもできるかと思うので、前向きに検討させていただきたいと思う。

収益に関しては、基本的に舞台の技師は常駐しており、私どものスタッフがいるので、収益にはあまりこだわらずにしていきたい。

平野委員：　子ども達がホールで演奏をすると、父兄が観に来るため、ホールに来館する層が増えると思う。家族総出できらりホールに一度足を運んでいただく機会を、増やしていくというのが良いと思う。

榎本委員：　私はダンスや子育て関連イベントで、きらりホールを年に数回利用しており、保護者や関係者の方から、ホールのスタッフの方々が他のホールに比べ親身で、窓口の対応も良いという声をたくさんいただく。それが、きらりホールの印象を良くし足を運びやすくし、利用者数の増加に繋がるのだと思う。

加えて子どもの事業について、幼児向き映画、歌のお兄さんのコンサートなどあれば、来館しやすい。

幼稚園、保育園などの情報が届いていない世帯の保護者が集まる「ニコカマフェス」に関わっているので、カバーできることもある。共同事業も考えてはどうか。

子どもだけで観に行ける対策、ＷＥＢ申し込みは良い。共働き世帯が増えているため、親の同行がなくても良いなど、子どもだけでも観

に行ける対策があれば良いと思う。芸術が不登校や社会的に居場所が見つからない子どもの居場所や生きる糧になるようになればと思う。

Ｄ－ｐａｒｔｙのような主催事業は良い。本気で取り組むダンスのコンテストもあれば良いのではないか。演劇ジャンルも同様に検討していただきたい。

指定管理者：　ぜひニコカマフェスとご一緒したい。ニコカマフェスで子ども向け映画会の実施を検討したい。

また、ダンスのコンテストや課題となっている演劇分野の事業についても引き続き検討していく。

石 井 委 員：　「劇場入門」について毎年同じことをやっていて、マンネリ化している。また参加者も集まりにくくなっているので改善していくことが課題である。

小 川 委 員：　子ども向け企画は保護者などが同行するため、集客に効果的である。作品展の会期に合わせた「サイエンスショー」企画はとても良い。続けていただきたい。

平野委員からご指摘のあった音楽を目指している子どもが、人前で演奏する経験やプロと演奏する経験はもちろんだが、音楽にあまり触れたことのない子どもが楽器や音楽をプロと経験するのは良い企画ではないか。

きらりホール職員の対応が良く、地域に密着してきているように感じられる。

植 草 委 員：　９月１６日に開催した「超チェロ組コンサート」は大盛況だった。演奏会に向けたワークショップで指導者に指導を受けて、参加者の上達する様が素晴らしかった。客席が空いているので、ワークショップの様子を公開するなど、何かの形で若い方が参加する機会になればいいのではないか。ワークショップに参加することをためらう方にも、また別の形でプロの演奏家や音楽、楽器に触れるきっかけになれば良いかと思う。

指定管理者：　お力添えが必要になるが、広がり、深さを企画に出していきたい。演奏会に向けてのワークショップということが前提であったが、子ども達の全く未知なるものに対する興味を集めて、多くの方々に見ていただく機会を、検討していく。

佐 瀬 委 員：　今の時代はインターネットが発達している。有名な先生のレッスン

の様子などがＹｏｕＴｕｂｅで全世界の規模で配信されている。きらりホールのチャンネルで、活動を発信するのはどうか。肖像権など許可をとる必要もあると思うが、ワークショップの様子が分かりやすく、参加者に繋がるのではないのか。

平栗委員長：　鎌ケ谷市芸術文化協会では、「鎌ケ谷再発見クラブ」を１０年程実施している。西部小学校と初富小学校の２校の児童に芸術文化を体験してもらっているのだが、三味線に興味を持つ子どもが多い。

また１２月７日に平成２９年度に盛況であった「漢字」についての文化講演会を開催する。これについても子ども達が大変関心を持った。これを機会に日本の漢字に興味を持っていただきたい。

文化講演会の講師をどう招聘するかご意見があれば、連絡をいただきたい。

齋藤副委員長：　日本の伝統芸能である民謡や三味線などは語り継がれることが難しくなっている。子ども達が少しでも触れる機会が必要であり、ホールの役割が重要となる。

伊藤委員：　来年は終戦から８０年になるが、企画ではそのことに触れていない。現状では、世界を見れば戦争が起こっている。平和というものをみんなで大切にしていこうという主旨のイベントを検討していただきたい。イベントで子ども達と戦争と平和について触れられる機会になるといい。

市立図書館が休館になるため、図書館と連携してできる企画、戦争や平和が絡んだもので子ども達が来られるような企画を行ってはどうか。

佐瀬委員：　きらりホール、中央公民館に多くの人が来てくれる方法を考えている。他市町村の公民館にも行くことがあるが、サークル活動の案内などがロビーにとても分かりやすく掲示されている。地味な宣伝ではあるが１階の店舗の入り口にも中央公民館の案内を掲示させてもらうなど人目につくと、話題になりやすいのではないか。

単独世帯の方がどこで人と触れ合ったら良いのかを考えた時に、きらりホールで何かやっていることがわかると行くきっかけになり集客にも繋がる。社会が明るくなることに繋がれば良いと思う。

石井委員：　セイウンが引き続き次期指定管理者となることは喜ばしい。次期指定管理者の公募はいつあったのか。セイウン以外の団体からの応募は

あったのか。

事　務　局：　次期指定管理者の募集については、今年の４月に募集を開始した。説明会には４社が来たが、申し込みの段階になり、セイウン１社となった。プロポーザルの審査選定基準があり、選考委員会で審査した結果、基準を満たしたので、セイウンに決定したという経緯である。

石 井 委 員：　この運営委員会も、１年に１回だけになってしまい、下半期の報告は書面をいただくが、委員の意見や提案が、計画にどう反映されているのか。１０年経ったので本運営委員会の設置目的などを、一度確認したい。

事　務　局：　本日も、各委員から主に自主事業の企画に関する意見をたくさんいただいた。全てを来年度に取り入れることは難しい面があるが、今後検討していくものになる。また、今後５年間の中で、タイミングを見て取り入れられる事業もあるのと思う。委員の皆さんの意見から更に広げていくという点では、指定管理者と協議しながら進めていき、運営委員会にまた戻す、という流れを繰り返しながら発展させていくものと考えている。

運営委員会自体、文化芸術に関わる活動をされている皆様だからこそ感じる、貴重な意見をいただける場だと思っている。

会議は１年に１回だが、前半で前年度の報告を書面でお送りしているため、そのタイミングで意見があればお願いしたい。集約した意見を委員の皆様にフィードバックし、共有する。また、事業報告の後に限らず、年間を通じて意見や感想があれば、事務局を通じて指定管理者に伝え、またそれが今後の活動に反映していくものとなる。

事務局は運営委員会を、以上のような位置付けとして、貴重な場であり、きらりホールを運営する上では大事な会議だと考えている。

～事務局から説明～

事　務　局：　本年度末で委員の任期が終了する。各団体の代表者には、来年度以降も引き続きお願いしたい。なお公募委員は、１２月１５日広報で募集を行う予定である。

また、来年度の運営委員会の日程は、７月に書面会議、同年１１月に第１回会議を開催したいと考えている。

書面会議の後だけでなく、いつでもご意見を頂戴したい。

７　閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

令和６年１２月１２日
氏名　榎本　美紅

令和６年１２月１４日
氏名　佐瀬　光代